



学校だより

1月号

【か】よくかんがえ 【な】なかよく 【が】がんばる 【わ】わたしたちかなっ子
神奈川小公式WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kanagawa/>

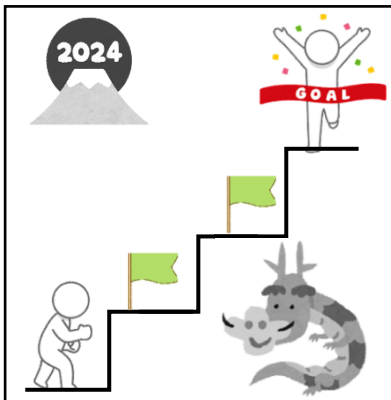
令和6年1月9日
横浜市立神奈川小学校

一年の計は元旦にあり

校長 田名部 和美

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。2024年の始まりです。今年も子どもたちにとって安全安心な学校づくりに努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

さて、「一年の計は元旦にあり」とはよく耳にすることわざですが、「一年のことは年の初めの元旦に計画を立てるべきである。物事は初めが大切でしっかりと計画を立てて着実に行え」という意味です。学校でも子どもたちは、頑張りたいことや挑戦したいことを考え、目標をもつ時間をとっています。そして、目標は掲げるだけでなく、そのために行動していくことが大切さであることも指導しています。



なぜ目標を掲げることが大切なのか。

それは、目標を掲げることで、そこに到達するまでの道筋を自分自身で考え、計画的に見通しをもって努力することができるようになるからです。目指す目標があることで方向性が定まり、正しい選択ができるようになります。また、目標を掲げるといことは、「なりたい自分になろうとする」というポジティブな思考から来ていて、行動に移す意欲につながります。だからこそ、目標は自分で考え掲げることに意味があり、それが達成に向けて努力する原動力となっていきます。

実はこれは、授業づくりにも通じる点があります。授業では、子どもたちに身に付けさせたい力を明確にし、ゴールイメージをもちます。そのために、どんな手立てを打つか考え、教材を準備し、発問を計画する…。身に付けさせたい力を身に付けさせることが授業のゴールであり目標であると置き換えると、それまでの過程で何をすべきかが明確になってきます。子育てにおいても同様のことが言えるのではないのでしょうか。「こんな人になってほしい」という願いをもった大人は、そのために子どもに対してどんなかかわりをしていけばよいのでしょうか。やるべきことやできることがたくさんあるな、と改めて思います。

「一日の計は朝にあり」ということわざもあります。「初めからしっかりと計画を立てなくてはならない」ということを意味している点は同じです。しかしこうして目標を掲げることの大切さに触れてみると、毎朝、その日の自分の行動や人との出会いに対して「こうなりたい、こうしていこう」と考えることは、今後の自分の一日を大きく変えるきっかけになりそうです。

2024年も子どもたちの笑顔あふれる学校づくりを目標に、教職員一同尽力いたします。